

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
北海道ハイテクノロジー専門学校	昭和62年12月4日	塩野 寛	〒061-1396 北海道恵庭市恵み野北2丁目12番1号 (電話) 0123-36-8119																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人産業技術学園	昭和63年1月5日	宮川 藤一郎	〒061-1396 北海道恵庭市恵み野北2丁目12番1号 (電話) 0123-36-8119																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士															
医療	医療専門課程	動物科学科		平成17年文部科学大臣告示139号															
学科の目的	生物工学は地球上の生命を支え、利用する技術として有用なものである。農業・漁業等の1次産業から医薬・食品そして環境に関する研究まで、幅広いバイオ系人材の養成はこれからの社会には必要不可欠である。当学科では、食品・医薬品や遺伝子工学・先端医療など幅広い分野のバイオ系技術者の人材養成を行う。																		
認定年月日	昭和 63年 4月 1日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
4年	昼間	3585時間	1290時間	630時間	0時間	1665時間	0時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
80人	16人	0人	4人	20人	24人														
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・平常点評価 49点以下不合格、50点以上合格 A:80点以上、B:60点台、C:50点台、D:40点台、E:39点以下															
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月第4日曜日～8月第3日曜日 ■冬季:12月24日～1月第3日曜日 ■学年末:3月第2日曜日～3月31日		卒業・進級条件	選択必修科目・自由選択科目のどれかを必ず選択し、履修することが、進級・卒業要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う。															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 年度初めに個人面談実施し学習面・生活面・健康面等の不安に応じて随時面談や指導を行い、必要に応じて保護者も含めて対応		課外活動	■課外活動の種類 運動系、文化系(科学部、調理部など)など多種多様 ■サークル活動: 有															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 食品・医薬品・化粧品等の製造・検査、分析会社、食肉等生産会社 ■就職指導内容 1年次から業界研究を実施、一般教養対策、面接指導等をキャリアセンターと連携して一人ひとりに対応して実施 ■卒業生数 8人 ■就職希望者数 8人 ■就職者数 8人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 100% ■その他  (平成 28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中級バイオ技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>実験動物管理者2級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 4年間で10～16個の資格試験を受験し平均の合格率は75%～100%程度。				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	中級バイオ技術者認定試験	③	8人	8人	実験動物管理者2級	③	8人	8人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
中級バイオ技術者認定試験	③	8人	8人																
実験動物管理者2級	③	8人	8人																
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成28年4月1日時点において、在学者24名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者24名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生サポートアンケート、担任による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学生生活・学業・実習・適応性などをチームで対応し退学者0名を目指している																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input checked="" type="radio"/> 有・無 兄弟姉妹・保護者特待制度、卒業生特待制度、単位減免制度、近隣高校特待制度、近隣在住特待制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="radio"/> 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																		
当該学科のホームページURL	URL: http://www.hht.ac.jp/																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

食品・医薬品や遺伝子工学・先端医療や環境に関する研究まで、幅広いバイオ系人材の養成を実践するためのカリキュラム編成を組織する。教育課程編成委員会は理事会のもとに設置されており、教育課程編成委員会規定に則り適切な運営を行っている。また、学校運営においては教務組織規則において「委員会での審議を通じて示された要請、情報、意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実践するにふさわしい教育課程の編成に努める」。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西村 浩樹	株式会社ホクドー 営業部部长	平成27年9月1日～平成29年8月31日(2年)	③
前仲 勝実	北海道大学大学院薬学研究院 生体分子機能学研究室 教授	平成27年9月1日～平成29年8月31日(2年)	②

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

平成28年度 第2回 平成29年3月10日 14:00～16:00 第1校舎113教室  
 平成29年度 第1回 平成29年7月19日 14:00～16:00 第1校舎113教室  
 平成29年度 第2回 平成30年2月6日 14:00～16:00 第1校舎113教室(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

講師会議、講師研修会では前年度教育実績報告(国家試験合格状況、ドロップアウト率、長欠者、留年者報告等)や今年度教育方針及び各科カリキュラムの構成ならびにシラバスについての会議を実施。教育課程編成委員会における意見を学科内にて再検討し、カリキュラムに反映させる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専門家の先生につき、実際の現場で利用されている知識や技術を学ぶことはもとより、職業人としてのルールやマナー、職業人意識などを学ぶ場とする。基本的に、業界で実際に使われている技術や知識を教えただきながら、命ある実験動物を使用することで責任感や向上心を持って取り組むことを学ばせる。また、知識や技術ばかりではなく、業界に身をおくその道の先輩である講師の先生との交流の中で、その仕事の面白さや苦しさなども学び、自分の将来像を描く礎とすることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

本校の授業で学ぶ基礎的な生物学などの事柄をベースに、実験動物技術者として必要な専門的な知識や技術を学ぶ。実験動物の取り扱いに必要な飼育、保定、麻酔、薬剤の投与、交配、繁殖など、様々な事柄を学ぶ。内容は多様であるが、実験動物を継続して飼育する環境を整えてあるので、連続的な学習をすることができる。指導担当の先生方とは、講師会議の他、少なくとも実習の準備段階及び成績評価後に面談を行い、具体的な指導内容について意見交換を行い、その先の指導などに反映させる。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
基礎動物学実習ⅠⅡ	実験動物技術に関する基本的知識や技術を学ぶ。保定、飼育など。	(株)ホクドー
応用動物学実習ⅠⅡ	実験動物技術者試験合格のための、応用知識や技術を学ぶ。マウス以外のげっ歯類の取り扱い、骨格標本の作製、下の学年に対する技術指導など。	(株)ホクドー
業界研究Ⅰ	最先端バイオテクノロジー分野における知識・実験技術、研究を遂行する姿勢を業界で活躍する研究者から学ぶ。	国立研究開発法人 産業技術総合研究所北海道センター
卒業実習ⅠⅡⅢ-B	国立の研究所で最先端のテーマに沿って卒業研究を行う。	国立研究開発法人 産業技術総合研究所北海道センター

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門学校の教員は専門知識・技術のみならず、教育力、クラス運営力など、学生に対する対応力求められる。また、業界の変化を敏感に察知し、柔軟に教育課程を作成し運営する力も必要である。このような専門学校教員としてのスキル向上のため必要な能力とそれに即した研修を組織的に行い学生にフィードバックする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成29年2月、7月、9月 滋慶教育科学研究所 バイオサイエンス教育部会 1名
- ・平成29年7月 北海道食品産業協議会 微生物講習会 4名
- ・平成29年9月 高文連空知支部理科学研究大会 1名

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成29年4月 滋慶学園北海道 講師研修会 1名
- ・平成29年8月 北海道労働局 発達障がい者に向けた就労支援セミナー 2名

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成29年12月 滋慶教育科学研究所 バイオサイエンス教育部会
- ・平成29年11月 北海道食品産業協議会 HACCP講習会

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成29年10月 滋慶教育科学研究所マネジメント研修
- ・平成29年12月 滋慶教育科学研究所学会
- ・平成30年7月 北海道私立専修学校各種学校連合会教員能力認定研修
- ・文部科学大臣認定職業実践専門課程に係る研修

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校法人産業技術学園が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりに貢献したい。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか
(2)学校運営	2-4 運営方針は定められているか 2-5 事業計画は定められているか
(3)教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界
(4)学修成果	4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が
(5)学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか
(6)教育環境	6-31 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備され
(7)学生の受入れ募集	7-34 学生募集活動は適正に行われているか
(8)財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	9-42 法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
(11)国際交流	11-48 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

日々の学校運営については学内の学校長、副校長、教務部長、部門長の会議である「運営会議(定例会毎月2回)にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度終了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動については教務部長ならびに学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院 主任	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	卒業生代表
松本 晴美	学生の保護者	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	保護者代表
大場 真哉	帯広大谷高等学校 教諭	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	高等学校関係者
早坂 貴敏	恵庭市議会議員	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	地域関係者
足立 晋	医療法人北晨会 恵み野病院 事務長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	業界関係者
松本 耕二	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク 代表取締役社長	平成29年7月1日～平成31年8月30日(2年2ヶ月)	業界関係者
真鍋 淳	医療法人社団 マナベ矯正歯科 理事長	平成29年7月1日～平成31年8月30日(2年2ヶ月)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	(11) その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>



○		業界研究Ⅱ	協力企業と連携し、将来像を具体化するための業界研究を行う。 レポートと出席によって評価する。	2 後	30	1		○		○		○	○	
○		英語Ⅰ	一般英語の基礎を固め、社会人として必要な英語の力と興味を養う。 試験によって評価する。	2 後	30	2	○			○			○	
○		英語Ⅱ	一般英語の応用力を身に付け、国際人としての素養を養う。 試験によって評価する。	3 前	30	2	○			○			○	
○		化学Ⅰ	化学の基本的概念(エネルギー、粒子)及び基礎的事項を理解し化学的に考察する能力を育てる。 試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		化学Ⅱ	化学の基本的概念(物質の構成や変化)を理解し化学的に考察する能力を育てる。試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○			○	
○		統計処理法	実験データの処理に関する統計的な方法を身につける。 試験によって評価する。	3 後	30	2	○			○			○	
○		生物学Ⅰ	生物や生物現象について、興味や関心を高める。 試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		生物学Ⅱ	生命現象の基礎を学び、生命の仕組みを理解する。 試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○			○	
○		環境概論	環境問題について幅広い知識を身につけるとともに、環境と社会の関わりについて理解する。試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		生化学Ⅰ	生態を構成する物質の基本を学習する。 試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○			○	
○		生化学Ⅱ	物質代謝の基本的骨組みを学習する。 試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○			○	
○		有機化学	有機化学の基本を身につける。 試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○			○	
○		分析化学Ⅰ	反応や化合物あるいは分析の基本となる原理について理解する。 試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		分析化学Ⅱ	定量分析及び機器分析の基本について理解する。 試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○			○	
○		分子生物学Ⅰ	原核生物と真核生物それぞれから見た遺伝子発現について学ぶ。 試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		分子生物学Ⅱ	原核生物及び真核生物のタンパク質合成について学ぶ。 試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○			○	

○		微生物学Ⅰ	微生物の分類、生態について学ぶ。 試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		微生物学Ⅱ	微生物の応用について学ぶ。 試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○			○	
○		遺伝子工学	遺伝子工学に頻繁に用いられる材料とその原理 について理解する。 試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○			○	
○		基礎実習Ⅰ	実験の化学的概念を学ぶ。 レポートと出席によって評価する。	1 前	90	2				○	○		○	○
○		基礎実習Ⅱ	実験を通して生命の仕組みを学ぶ。	1 後	45	1				○	○		○	○
○		環境概論	環境問題について幅広い知識を身につけるととも に、環境と社会の関わりについて理解する。試験 によって評価する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		公害基礎Ⅰ	公害防止管理者試験に合格する為の幅広い知識 を身につける。 レポートによって評価する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		生命倫理	安全性の問題を中心に今日のガイドラインの成立 について学ぶ。 試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○			○	○
○		生命化学Ⅰ	生命化学のトピックスを中心に学ぶ。 試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○			○	○
○		生命化学Ⅱ	生命化学のトピックスを中心に学ぶ。 試験によって評価する。	2 後	60	4	○			○			○	○
○		環境分類学	生物の採集、同定、標本作成方法など生物分類 技能検定試験合格のための知識を学ぶ。試験に よって評価する。	1 前	15	1	○			○			○	
○		危険物化学	危険物取扱者試験合格のために、様々な化学物 質の取扱法や法規を学習する。試験によって評価 する。	1 後	30	2	○			○			○	○
○		毒劇化学	毒劇物に関する基礎的な知識に必要な化学の力 をつける。 試験によって評価する。	2 前	60	4	○			○			○	○
○		生命工学特論	ヒトのがん遺伝子、免疫関連遺伝子、遺伝病、遺 伝子診断などについて解説する。試験によって評 価する。	4 前	45	3	○			○			○	
○		遺伝子実習Ⅰ	遺伝子組換えの基礎的実験を行う。 レポート、出席、試験によって評価する。	3 前	90	2				○	○		○	
○		遺伝子実習Ⅱ	遺伝子組換えの応用実験を行う。 レポート、出席、試験によって評価する。	4 前	45	1				○	○		○	

○		応用実習Ⅰ	化学・遺伝子工学などに関する実験技術と論理的思考方法を習得する。 レポートと出席によって評価する。	1 後	90	2			○	○	○		
○		応用実習Ⅱ	化学・遺伝子工学などに関する実験技術と論理的思考方法を習得する。 レポートと出席によって評価する。	2 前	135	3			○	○	○		
○		遺伝生化学	遺伝に関わる生体物質の化学的構造や遺伝現象の生化学的側面を学習する。試験によって評価する。	3 前	30	2	○		○		○		
○		薬理学	医薬品の作用やそのメカニズムを学ぶ。 試験によって評価する。	2 前	30	2	○		○			○	
○		バイオテクノロジー特論Ⅰ	核酸や安全管理、動物、植物、微生物のバイオテクノロジーに関する高度な知識を学ぶ。試験によって評価する。	3 後	45	3	○		○		○		
○		解剖生理学	生物の体の成り立ちや器官の位置・名称・機能などについて学ぶ。 試験によって評価する。	2 後	30	2	○		○			○	
○		基礎動物学Ⅰ	実験動物技術者試験対策として、実験動物の飼育・飼料・栄養・衛生・施設と管理法などを学ぶ。試験によって評価する。	2 後	45	3	○		○			○	
○		基礎動物学Ⅱ	実験動物技術者試験対策として、実験動物の遺伝・育種・繁殖・動物実験の基礎などを学ぶ。試験によって評価する。	3 前	45	3	○		○			○	
○		病原微生物学	実験動物技術者試験対策として、異常を示した実験動物への初期対応法や感染症などについて学ぶ。試験によって評価する。	4 前	30	2	○		○			○	
○		応用動物学	実験動物技術者試験対策として、マウス・ラットの特徴や飼育・繁殖峰などについて学ぶ。試験によって評価する。	3 前	45	3	○		○			○	
○		動物細胞培養実習Ⅰ	動物細胞培養法の基礎を学ぶ。 レポートと出席によって評価する。	2 前	45	1			○	○		○	
○		動物細胞培養実習Ⅱ	細胞培養を利用した実験技術を学ぶ。 レポートと出席によって評価する。	2 後	45	1			○	○		○	
○		免疫化学演習	タンパク質などの生体構成成分を利用した化学実験法を学ぶ。 レポート、出席、試験によって評価する。	3 前	60	2	○		○		○		
○		基礎動物学実習Ⅰ	実験動物技術者試験対策として、実験動物の取扱法（給餌・飼育・消毒など）を学ぶ。レポート、出席、試験によって評価する。	2 後	45	1			○	○		○	○
○		基礎動物学実習Ⅱ	実験動物技術者試験対策として、基本的な動物実験の手技（採血、麻酔、安楽死など）を学ぶ。レポート、出席、試験によって評価する。	3 前	90	2			○	○		○	○
○		応用動物学実習Ⅰ	実験動物技術者試験対策として、血液検査や糞便検査など各種検査法を学ぶ。 レポート、出席、試験によって評価する。	3 後	45	1			○	○		○	○

○		応用動物学実習Ⅱ	実験動物技術者試験対策として、生殖工学に関する技術を学ぶ。 レポート、出席、試験によって評価する。	3 後	90	2				○	○			○	○
○		卒業実習Ⅰ	卒業研究のテーマに従って実験を行う。 中間審査によって評価する。	3 後	90	2				○	○			○	
○ *1		講読演習Ⅳ	学生から社会人への気持ちの切り替えや、社会人としての振る舞いを身につける。 レポートと出席によって評価する。	4 通	60	2			○	○				○	
○ *1		バイオテクノロジー演習	学生から社会人への気持ちの切り替えや、社会人としての振る舞いを身につける。レポートと出席によって評価する。	4 通	60	2			○					○	
○ *2		就職講座Ⅱ	社会人として必要なビジネスマナーを身につける。 試験によって評価する。	4 前	60	4			○					○	
○ *2		バイオテクノロジー特論Ⅲ	社会人として必要なビジネスマナーを身につける。 試験によって評価する。	4 前	60	4			○					○	
○ *3		特許法	特許法の概要を習得し、研究開発や企業活動において活用できる素地を培う。 試験によって評価する。	4 前	30	2			○					○	
○ *3		バイオテクノロジー特論Ⅲ	社会人として必要とされる知的財産等に関する知識を学ぶ。 レポートと出席によって評価する。	4 前	30	2			○					○	
○ *4		卒業実習Ⅱ	卒業研究として実験を行い、その結果についてプレゼンテーションを行う。 審査によって評価する。	4 前	270	6				○	○			○	
○ *5		卒業実習Ⅲ	卒業研究として実験を行い、その結果についてプレゼンテーションを行う。 審査によって評価する。	4 前	90	2				○	○			○	
○ *6		卒業実習Ⅳ	卒業研究のまとめを行う。卒業論文審査によって審査する。	4 後	270	6				○	○			○	
○ *7		卒業実習Ⅴ	卒業研究のまとめを行う。卒業論文審査によって審査する。	4 後	90	2				○	○			○	
○ *4		インターンシップⅠ	自己の職業適性を把握した後、希望分野の企業において職業研修を行う。 レポートと出席によって評価する。	4 前	270	6				○				○	
○ *5		インターンシップⅡ	自己の職業適性を把握した後、希望分野の企業において職業研修を行う。 レポートと出席によって評価する。	4 前	90	2				○				○	
○ *6		インターンシップⅢ	実務実習のまとめを企業において研修する。 レポートと出席によって評価する。	4 後	270	6				○				○	
○ *7		インターンシップⅣ	実務実習のまとめを企業において研修する。 レポートと出席によって評価する。	4 後	90	2				○				○	

		○	公害基礎Ⅱ	公害防止管理者試験に合格する為の知識を身につける。レポートによって評価する。	1前	30	2	○			○			○
		○	放射線概論	放射線取り扱いの基礎を放射線の物理学、化学、生物学を学ぶ。試験によって評価する。	1後	30	2	○			○			○
		○	放射線概論	放射線取り扱いの基礎と放射線の物理学、化学、生物学を学ぶ。試験によって評価する。	1後	30	2	○			○			○
		○	生命工学特論	ヒトのがん遺伝子、免疫関連遺伝子遺伝病、遺伝子診断などについて解説する。試験によって評価する。	2前	45	3	○			○			○
合計			80科目			2685単位時間			(112 単位)					

\*1~7の科目は、どれか1科目を選択

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各授業の出席率が75%をこえること/定期試験等に合格すること/ 各年次の規定時間数を出席すること		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。